

今月の一言

キーワード：指導者としての第一目標は

クラマーさんはまた、選手に「フェアプレー」を徹底させた。

「指導者の目標は、一番目にフェアプレー、二番目に良い試合をすること、三番目に勝つこと。この三つが揃って初めて指導者として満足できる」と言っていた。日本サッカーはこれまで多くのフェアプレー賞を受賞しているが、クラマーさんの教えが脈々と受け継がれているのだと思う。

東京オリンピックで優勝候補のアルゼンチンを破ったとき、ロッカールームは多くの関係者の歓声で沸きあがっていた。そこに現れたクラマーさんは人々に外に出てもらい、選手に向かってこう言った。

「今日、君たちには新しい友人がたくさんできるだろう。その人たちと大いに喜びを分かち合いなさい。しかし、今一番友人を必要としているのはアルゼンチンの選手たちだ。私はアルゼンチンのロッカールームにいく」

そう言って出て行ってしまった。そのときは、「何を言っているんだろう？」とクラマーさんの真意がつかめなかった。

次の試合のチェコスロバキア戦で日本は0-4で大敗した。アルゼンチン戦とは対照的にロッカールームは閑散としていた。

そのとき、クラマーさんは再び選手を集めて言った。

「これまでの君たちの努力は私が一番知っている。今日はサッカーのことは忘れよう。人生はサッカーがすべてではない。今日、君たちのところに来る友人は、数は少ないだろう。しかし、その友人こそが本当の友だちだ」

そう言われて、アルゼンチン戦の後にクラマーさんが話したことがようやく理解できた。

Jリーグが好調のとき、クラブの経営が危機のとき、ワールドカップで惨敗したとき、いつもこの言葉を思い出して自分を戒めたり、勇気づけたりすることができた。そして、クラマーさんのように人を思いやれる人間になりたいと思った

著書：独裁力 著者：川淵 三郎

正々堂々と戦う！

2016年10月25日

さいのう とおる

追伸：いっきに寒くなり、紅葉も進んでいます。風邪に注意！

今年も残り2か月となりました。やり残しが無いようにお願いします。